

鳥羽港周辺海域の漁業と観光業連携による海女文化・地域振興に資するBC（ブルーカーボン）プロジェクト

■プロジェクト実施者：JF鳥羽磯部漁業協同組合、鳥羽地区黒のり養殖研究協議会、鳥羽市、鳥羽商船高等専門学校、鳥羽市観光協会

■プロジェクトの概要

三重県鳥羽港周辺の答志島や菅島は多様な海藻類に恵まれ、古くからノリ、ワカメ養殖業や三重県が日本一の就業者数を誇る海女漁が盛んな地域です。しかし近年は気候変動や海の環境変化、植食性魚類による食害の増大等により生産量が減少し、市の基幹産業である漁業や海女文化*1の存続が危ぶまれる状況となっています。

鳥羽磯部漁協は、地域全体のカーボンニュートラルを目指す【漁業×観光×ゼロカーボンシティ鳥羽】の中核を担い、漁業者が鳥羽市・関連団体と一体になり、**次世代を担う子供たちと環境再生活動**などを行っています。

*1：「鳥羽・志摩の海女漁の技術」は国の重要無形民俗文化財に指定されています（平成29年）



■プロジェクトの特徴・PRポイント

- ノリ・ワカメの養殖では、海藻の生育阻害要因である植食性魚類による食害への対応として、漁業者は**防御網**の設置等の対策を行い、養殖業を行いながら**CO₂を固定**しています（**ブルーカーボン**）。
- **共同ノリ加工場**による効率的な生産や、漁業者と連携した**アイゴ（植食性魚類）の積極的な水揚げ**、**海女さんレシピ**によるアイゴ商品の開発など、**脱炭素と並行した地域活性化**に取り組んでいます。
- 近年、海藻類の養殖業や海女文化の伝承は厳しい状況にあります。海洋環境教育講座として未来を担う**地域の子供達と行う環境再生活動**や**小学生や幼稚園への食育活動の支援**を継続しています。
- 公・民・学の連携として、鳥羽商船高等専門学校と協働して**海洋DX**である「AIを推進した**ブルーカーボン貯留量**の自動計測システムの開発」*2や、鳥羽市が管理・運営する鳥羽市水産研究所と連携して行う**鳥羽工法***3による**藻場再生**など先進的な取り組みを行っています。
- 鳥羽磯部漁協は、「漁業×観光のまち鳥羽」において産業の中心的役割を担っており、新たなゼロカーボンシティ宣言に即して地域全体で脱炭素社会を実現するために、**ブルーカーボンクレジット**を活用して**気候変動対策に資する取り組みを拡大**していきます。

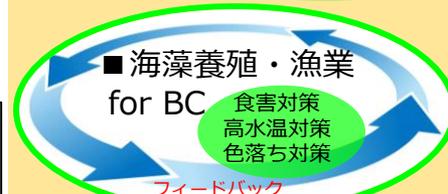


*2：詳細は<https://news.kddi.com/kddi/corporate/newsrelease/2023/03/31/6647.html>または上記二次元コード参照

クレジットは地域の子供たちとの活動などに活用され、脱炭素社会実現に向けた環境再生活動の継続や観光業との連携拡大のために活用します

ブルーカーボンを活用して、**海**というフィールドを通じた**人と資源の循環**をめざします

◆社会共生 産地交流・人材育成



◆子どもたちの未来のために 食育活動・海洋教育
◆海と地球のために 環境保全・資源保護

ゼロカーボンシティ実現に向けた
海洋DX 公・民の連携 観光
教育



「TOBAゼロカーボン・チャレンジ2050」宣言（令和4年12月）



鳥羽工法*3によるアラメの藻場再生活動



鳥羽市内小学校給食への海苔の提供



（写真）鳥羽市観光協会

*3：浅瀬で中間育成したカジメ・アラメ等の苗を天然石に取付けて設置する鳥羽市水産研究所考案の海藻移植方法。答志島では子供たちの「想い」が書かれた石に海藻を取付け船上から投入し、漁業者が海藻の生活史にあわせて食害防止網を張る等の海中作業を行い、持続的な藻場の造成を行っています。